

小学校と連携して取り組んだ事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・安芸高田市域の約8割を占める森林は、手入れ不足などにより荒廃しているところも見受けられる。荒廃した森林を健全な森林として守っていくためには、大人や子ども、地域の方々に、森林に関心を持ってもらい、実際に山で木を伐り出す、あるいは山の木を活用する機運を高める取組みが必要である。

取組の内容

- ・事業主体：安芸高田市
- ・実施場所：安芸高田市
- ・業務委託先：森の学校プロジェクト実行委員会
- ・業務量：市内小学校 9校 224名
- ・業務金額：1,000千円
- ・業務期間：令和1年7月4日
～令和2年3月29日



事業の目的

児童・生徒、地域住民が木材に対する親しみや山の機能、木の文化への理解を深めていくため、「森の学校プロジェクト」として、次世代を担う子供達への森林環境教育活動等に取り組む。

取組後の感想

【良かった点】

・教員の感想

子どもたちは、どの活動もとてもたのしかったようです。木をじっくり見ることは、普段あまりしないので、新たな発見がたくさんありました。

私もとても勉強になりました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



中学校と連携して取り組んだ事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：安芸高田市

事業の目的

・ミツマタは和紙(特に紙幣用紙)の原料として、古くから栽培されてきた。しかし、最近では大量生産が容易な西洋紙に市場を奪われ減少傾向を続けている。このため、我が国固有の良質な製紙原料であるミツマタの生産を復活させる植樹を行う。甲田の地において、卒業証書用紙や紙幣用紙に活用する和紙を生産するミツマタを協働で植樹する活動を通して郷土を思い、夢を育み、向上する人づくりを目指します。

取組の内容

・事業主体：甲田町資源を守る会
・共催：安芸高田市
・協力：公益財団法人 日本レスリング協会
広島県レスリング協会

・実施場所：安芸高田市甲田町
・業務金額：300千円
・日 時：令和2年3月18日
※コロナウィルス感染防止のため中止

・甲田中学校児童により、和紙原料となるミツマタ苗40本を協働で植栽する。
山鍬やスコップで植穴を掘り、苗木を植え、根元を踏み固め、竹支柱を立て、給水をする。
将来的には6haの山林にミツマタを植栽し、広島県最大の一大群落を目指し計画を進める。

今後の展開

・元気な森を次世代に残していくため、ニホンジカの食害にあわない樹種であるミツマタを中心に、地元中学校と連携し毎年植栽をする。
・広島県最大の一大群落を目指し計画を進め、3月から4月には黄色のかわいい花を咲かせるなど景観作物としても来訪者を楽しませ、将来的に収穫できるように整備できれば、子ども達に紙すき体験なども実施する計画である。

取組の感想

【良かった点】

・残念ながら、イベントはコロナウィルス感染防止のため中止となったが、学校と連携することで、継続した事業を今後は展開できる体制ができた。また中国新聞社やNHKの取材了承も得たことから、ひろしまの森づくり事業の宣伝や地域住民の理解など、相乗効果が期待できる取り組みとなる期待が高まった。



地域住民等と連携して取り組んだ事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：安芸高田市

事業の目的

・山頂から眼下に広がる雑木林は、ここ何年もの間手が入らず、うつそうとした状況で放置されてきているため、かつての景観が損なわれてきており、素晴らしい地域資源であるにも関わらず、充分活用がされていない。

・そのため、地元住民団体や、観光協会等で組織する団体を立ち上げ、ひろしまの森づくり事業を活用して森林整備を計画し、山頂及び登山道周辺の森林整備、迂回ルート新設、案内板の設置などに取り組んでいく。これまで以上に、通年で多くの登山客が訪れてもらえるような鷹ノ巣山に整備し、これからも地域の宝として守っていく。

取組の内容

- ・事業主体：鷹ノ巣山整備実行委員会
- ・事業費：2,600千円
- ・事業量：登山道整備3328m
他案内板16枚

平成30年度に特認事業に採択され、31年度は山頂の眺望をよくするための取り組みをしました。

その効果を発揮するため、引き続き、登山ルートの案内看板設置及び登山道マップの整備を実施した。

今後の展開

・3年間で森林整備2ha、登山道整備400m、県産材を利用した案内看板標識の設置、簡易休憩施設等の整備を行い、事業実施後は組織した実行委員会等を中心に維持管理と地域資源活用に取り組んでいく予定である。

取組の様子

【山頂 維持管理 前後】

